

物語の流れ（年表）

- （光 元仁）57才
楚の剣士であり、その名は中国全土に轟いていた。
將軍として兵に剣を教えるべく楚王に仕えたが、老齢になり軍を退く。
老齢になって結婚し子供を授かるが、若き妻を病で失う。
軍を退いたのはこの事が影響していたが、真の狙いは殺人剣としての剣を活人剣として変えていきたい為であった。
- （光 元仁）57才
天慎 1才
太行山脈に、幼い娘天慎と共にこもり、剣の修行に入る。
- （孟兄弟）
士金 10才
超銀 7才
旧晋国との戦いで国境沿いに住んでいたため一族や親を殺された。
兄弟も襲われたが、少年ながらも士金の知恵の力で危機を脱した。
兄弟二人で、各地を彷徨いながらも何とか生き延びていた。
- （光 元仁）60才
天慎 4才
老いて尚、心と体を鍛え、ついに風波剣という究極の技を編み出す。
- （孟兄弟）
士金 13才
超銀 10才
超銀は行く先々で、できの良い兄に比較され続け次第に心がすさんでいく。その裏には可愛がられてきた両親の死がいつまでも心に陰を与えていたためであった。
やがて悲しみが故の乱暴な行動が目立つようになる。
士金は超銀の心の内がわかるだけに本人としては辛かったが、超銀に厳しく当たる日が続いた。
- （孟兄弟）
士金 15才
超銀 12才
身体が大きくなった超銀との間にけんかが絶えなくなり、ついに二人はけんか別れしてしまう。
- （孟兄弟）
超銀 14才
趙の国内で手のつけられない乱暴者のごろつきになる。
身体がめきめき大きくなり、その有り余る力を全て暴力に向けていた。趙国に入っていたのは、両親の恨みが大きかったともいえたが超銀の暴れる範囲は周辺国にも及んでいた。
- （光 元仁）62才
天慎 6才
士金 17才
孟士金が元仁の剣名を頼りに弟子入りを志願してくる。
すでに弟子を取らなくなっていた元仁であったが、士金の弟子入りの理由が、弟を正しい道に歩ませたい事に有り、又、士金が真っ直ぐな正しい心と志を持った青年で有ったことを見抜き、弟子入りを認めた。
- （孟兄弟）
士金 22才
元仁 67才
恵まれた素質を持っていた士金は、心身の厳しい修行の末風波剣を授かる。

天慎 10才

自身の目的であった、弟を正しい道に歩ませるために師の元を去る。

(孟兄弟)

士金 22才

超銀 19才

秦国で王の近親の兵に乱暴を働き戦いとなり、多勢に無勢で危機に陥っていた超銀を救うべく、剣を口にくわえ、自らの命を差し出し弟の命乞いをし、認められて超銀を救い出すことに成功する士金。超銀がこの時殺した兵は100人を超えていた。力任せとはいえ、如何に超銀の戦闘力が凄かったかが分かる。

(孟兄弟)

士金 22才

超銀 19才

兄へのこだわりを捨て、兄より、剣と心を学ぶ修行に入る超銀。それは凄まじい修行で有ったが、戦術面の学びも含まれていた。士金の戦術は師元仁から学んだ物である。人として、戦士として超銀は蘇った。

(孟兄弟)

士金 25才

超銀 22才

士金は風波剣をさらに進化させ、早さを加えた風神剣を編み出す。超銀は己の力を利用した雷神剣を編み出すことで、何とか兄に並ぶ能力を手にする。だが、二人が立ち合うと、三本に一本しか超銀が勝ちを得ることはなかった。士金の剣はそれほど強かった事を意味していた。

(孟兄弟)

士金 25才

超銀 22才

秦の町で暴れていた兵達をあっさりと押さえ込んだ二人を、新しい秦王の賢臣に認められ、秦王に仕えることになる。

(光 元仁) 71才

天慎 15才

士金の便りにて現況を知り心より喜ぶ元仁。新しい秦王はその仁政が元仁の耳にも届いていた。この頃に新たなる高みである光破剣の構想が立っていた。天慎は、自ら修行を願い出て元仁に認めさせる。

(光 天慎) 18才

元仁 74才

素質があった天慎はめきめき上達し、厳しい修行もこなし続けた。特に集中力が並外れて高く、その力は弓に適していたため、弓を修行の中心とした。

(孟兄弟)

士金 28才

超銀 25才

西虎 22才

趙国との防衛戦中に山里に隠れていた西虎を部下にする士金。西虎は戦略家であったが、それ故に戦争にあられた世情を嫌い、山里に隠れ学問ばかりしていた。そんな山里にも戦いが及ぶ中、士金の見事な戦い方に強く惹かれその配下に加えてもらうことを願い士金に許された。超銀はその力を存分に振るい、強兵である趙兵を瞬殺し、一人で一兵団を全滅させるという凄さを見せつけた。

(孟兄弟)

士金 29才

超銀 26才

西虎 23才

魏国との戦闘では、飛び抜けた戦果を上げる猛兄弟。この戦いで秦王に厚い信頼を受けるようになる。西虎も士金を上回る戦術で猛兄弟を助けていた。秦王は西虎の優れた戦術と明るい性格を好み、特に信頼を寄せた。

世情は旧三晋（趙、魏、韓）の勢力争いに齊、楚がからみ各地で戦闘が激化し始める。秦王は、これには加わらず自国の防衛に徹していたため、秦国内は充実し、様々な人材が集まってくるなど、国力を十分に蓄えていた。

（光 天慎）19才
元仁 75才
元仁より、光破剣構想より生まれた光天弓を授かる。
又、自らの学問により薬草の知識を高め、医術を身につけていく。
父元仁が、身体に衰えを見せ始めた為であった。

（光 元仁）76才
天慎 20才
この頃から急速に身体が衰え始め、自ら光破剣を編み出すことを諦める。娘と共に医術を学び始める。
ちよくちよくあちこちの村や町に下り、人々に医術を施し感謝されるようになる。

新しい楚王が、中華の覇権を握る野望を持ち、大規模な戦闘を開始する。
春秋時代の頃からの強国であった楚は、この当時でもずば抜けた戦闘力を有していた。

（孟兄弟）
士金 30才
超銀 27才
西虎 24才
楚との戦いで、無類の強さを発揮する猛兄弟は、中華最強の楚軍の中核を、あっさりと討ち破り、その遠征を阻止する。
楚王は最強の近衛兵団を破られ、失意の中、国へと戻っていった。

祖先を祭ることに厚かった秦王は、この成果から、祖先の夢であった中華への進出を決意してしまう。荒れた世をただす為にと考えたことではあったが、楚を簡単に破った猛兄弟の力と西虎の戦術を過信した結果であり、野心が芽生えた為でもあった。

翌年、
士金や西虎の懸命な説得も受け入れられず、あくまでも世の乱れを正す為だと強調する秦王は、命として進軍を決めてしまう。
王道が霸道に変わった瞬間であった。

（光 元仁）78才
天慎 22才
士金からの便りで、士金の理想の道が大きく曲げられた事を知る。
王命ともなれば逆らうことはできないのだ。王の下を去ることも選択肢だが、祖国を荒らされる懸念が強く、士金達は苦しみながらも王に従うことを選んでいた。
何かの悲劇が始まる予感が、元仁の心を暗くしていた。

（孫 行徳）19才
韓国内で有力な貴族であった孫家に生まれた行徳は、裕福な暮らし

の中、何不自由なく育っていた。しかし、国内の権力争いの中、親、一族を殺される。唯一生き残った行徳は、負傷しながらも子供の頃からの友人の助けでからも韓国を脱出する。

(孫 行徳) 19才 絶望の中、あちこちを彷徨い、太行山脈に食べ物を求めて入り、空腹と傷が悪化して力尽き倒れる。

(光 元仁) 78才
天慎 22才 たまたま薬草を採りに行った元仁と天慎は、麓近くの山中で行徳を見つけ助ける。
死にかけていた行徳を、天慎は懸命に看病し死の床から救った。

(孫 行徳) 19才
元仁 78才
天慎 22才 最初は、家族を失った悲しみから、復讐のことしか考えない行徳だったが、元仁、天慎親子との交流により人として導かれ、元仁の元で弟子として修行を始めることとなる。
元仁は、身体の衰えから、相手として立ち合うことはほとんどなかったが、要所では自らを相手として立ち合わせた。
この時元仁は死病にかかっていた。

(孟兄弟)
士金 32才 趙との戦いで、趙軍の主力をほとんど駆逐していく秦軍。
超銀 29才 主力を破られた趙国は領土の半分を奪われ敗北する。
西虎 26才 趙王は秦との盟約を結びその支配下に入った。

秦の勢いに怯えた魏王は齊と盟約を結び秦の進軍に備える。
三晋の内最も力のあった趙国を破った秦軍は、翌年、魏に矛先を向けた。
韓は国内情勢が定まらず何時でも討てるとの判断による。

(孟兄弟)
士金 33才 強力な齊軍の援軍を含め、魏軍を破竹の勢いで破り進軍する秦軍。
超銀 30才 猛兄弟の上げる戦果は凄まじく一日に20の城を落とす勢いだった。
西虎 27才 当時では信じがたいスピードである。

(孫 行徳) 21才
元仁 80才
天慎 24才 心身を鍛え上げた行徳は、貴族の血か、素質だったのかわずか2年で、師の構想であった光破剣を習得する。
元仁は、その全てを行徳に伝え、その生涯を静かに閉じた。

(光 天慎) 24才
行徳 21才 父を看取った後、かねてからの思いであった、自ら学んだ医術を、戦いに傷ついた人を助ける為に使うべく、あちこちに出かけていくようになり、すでに恋仲になっていた行徳も協力する為について行くようになる。

(武 幸運) 6才
幸運 魏の国に暮らしていた武幸運は、明るく元気な少年として育っていた。しかし秦軍が侵攻してきた為、住む町は焼かれ、親を秦兵に殺

戦争の悲劇

(襲撃)

脱出

(明るい日常)

(脱出)

される。幸運も殺されかかるが、士金がそれを止め助かる。士金の元へ連れて行かれるが秦軍への恨みは深く、隙を見て逃げ出す。

(武 幸運) 6才

彷徨う

(彷徨う)

あちこちに彷徨うが、戦果に荒れた世間は、幸運を助けてくれることはなく、空腹の為動けなくなり死にかかる。村を訪れていた天慎がこれを発見し助ける。こうした子供を何人も助けていた天慎だが、幸運の状態はひどく、山中に連れ帰り何日もかけて懸命に看病したおかげで何とか命を取り留めた。

(武 幸運) 6才

復讐の意味

(弟子入り)

(復讐の意味)

以降天慎を姉のように慕う幸運。剣を使う行徳には最初はなじまなかったが、助けられたことに恩義を感じてはいた。共に暮らす内に行徳の身の上を知り、又、行徳が復讐を捨てたことを知った。護身の為にと天慎に進められて、行徳に弟子入りする。(最初はまだ復讐をあきらめていず、力を求めた為であった)

(孟兄弟)

士金 33才

超銀 30才

西虎 27才

魏はついに主力を失い、わずかな兵で王都に籠もった。秦軍に囲まれた魏王は、降伏し秦の支配下に入る。趙国より領土の広く、しかも斉軍の援軍を受けての魏軍の早すぎる敗北は、各国の驚異の的になった。

秦軍を恐れた韓王は、秦に恨みの深い楚に協力を求める。
楚王は、なんとしても秦に恨みを晴らすべくこれに応じる。
韓に侵入した隙を突いて秦国内を攻めようという策だった。

(孟兄弟)

士金 34才

超銀 31才

西虎 28才

楚の策を見抜いていた士金と西虎は、韓国に進むと見せて、超銀の部隊を楚の軍にぶつけた。あつという間に楚将を討ち取られ散々に破られた楚軍は逃げ帰る。そのタイミングを見計らい一気に韓へ進軍する士金達主力軍。韓軍はたちまちに半数の兵力を失ってしまう。

(孫 行徳) 23才

天慎 26才

幸運 8才

祖国の危機を予感していた行徳は、山を下り、友人がいる韓軍へと駆けつける。
師が愛していた弟子である士金を倒す為に。

師の危機

(天慎の不安)

(孫 行徳) 23才

士金 34才

宿命とも云うべき、同じ師を持った士金との壮絶な戦いは、光破剣を放つ隙をなかなかつけられず、長時間に及ぶが、ついに士金を倒す

超銀 31才
天慎 26才
幸運 8才
西虎 28才

事に成功する行徳。
士金は行徳の剣筋に、師が同じであることを悟り、師が新たな技を構想していたのを知っていた為、自身の敗北を悟っていた。
行徳の剣に貫かれながら、その技の見事さに笑顔で息絶える。

士金を失い驚愕のあまり敗走する秦軍に、別働隊だった超銀の部隊が駆けつけ、何とか崩れる事は避けられた秦軍だったが、最強の将軍を失った悲しみは深く、兵の足取りは重かった。韓軍は兵力の乏しさ故に深追いはしなかった。

(孟超銀) 31才
西虎 28才

兄の死に深く悲しむ超銀。だが復讐を果たすべく、喪に服す間もなく再び兵を挙げる。その心には死を懸けた決意があった。

(孟超銀) 31才
西虎 28才

士金を失った悲しみの中、超銀の決死の作戦をきかされ動揺するが猛兄弟が懸けた、民が幸せになれる国造りの夢を実現させる為にも、後のことを引き受ける決意をする西虎。

(孫 行徳) 23才
超銀 31才
西虎 28才
天慎 26才
幸運 8才

無敵の秦軍を破った韓軍は、戦いに自信を取り戻し、意気も上がり行徳を中心として再び秦軍を迎え撃つ。
超銀の存在は知っていた行徳だが、あくまでも力頼みの暴れん坊で、兄を困らせた弟としかみていなかった。
最強ともいえた風神剣を破った光破剣の力を信じ、負けるとは思えなかった。

(孟超銀) 31才
西虎 28才

超銀と行徳の運命の闘いは、あっさりとしかし、両軍の誰もが予想もしなかった結果となる。
超銀の死と、その死を懸けた作戦に、行徳が利き腕を失ってしまったのだ。
超銀の死に驚愕した秦軍は再び敗走しかかるが、唯一真相を知っていた西虎の見事な指揮により立ち直り、寄せてきた韓軍を退ける。

(西虎) 28才
行徳23才

西虎は超銀の亡骸のそばに倒れていた行徳の命を取ることはせず、超銀の亡骸だけを持ち帰った。
西虎には、行徳が、自らの技を封じられ失意の内に死ぬと思われたのとそれとは逆に、猛兄弟が命を懸けたほどの相手が復活してくれる事を望む気持ちがあった。そして自らの戦略で戦いたかった。

秦軍は、中心であった猛兄弟を失い、失意の中、全軍が国内へ引き上げた。

秦王は、この失敗の責任が自分にあった事を自覚し、二人の亡骸の前で3日間も嘆き続けたという。

二人の亡骸は、王族並みの国葬とされ丁重に葬られた。

(孫 行徳) 23才
天慎 26才
幸運 8才
(師行徳の危機)

敵に見逃され、屈辱と失望に包まれながら、重傷の身体を駆けつけた天慎らによって山中に運ばれる行徳。
天慎の懸命の看病によって回復はしたが、深い絶望感の為、心が死んでいた。ただ生きているだけの状態の行徳を、懸命に励まそうとする天慎だが、効果はなかった。

猛兄弟の死を知った各国は、秦との盟約を捨て、領土の回復と戦力の補充に全力を注いでいた。

(西虎) 29才

秦王の悲しみは深く、遠征を再開する見込みは全く立たなかった。
西虎は戦術にて戦果を上げる為に、兵の訓練を始める。
優れた個による戦闘から、優れた戦術によって戦闘を行う、まさに秦の新しい戦いの転換点といえる。

(孫 行徳) 24才
天慎 27才
幸運 9才

無為の中1年が過ぎ、少しずつ心が回復してきた行徳だが、
利き腕を失った事実は重く、ついに池に身を投じてしまう。
行徳の不審な行動に気付いた幸運の知らせで天慎が行徳を救い出し、命は取り留める。死を決意していた行徳の心は、再び閉じられる。

(光 天慎) 27才
行徳 24才
幸運 9才

(天慎の危機)

もはや尋常な方法では、行徳を立ち直らせる事はできない事を知った天慎は自らの利き腕を切り落としてしまう。
あまりの行動に驚愕する行徳と幸運。
傷からの出血が酷く、止血が効かず、どんどん弱っていく天慎は、それでも必死に行徳に生きる事を説き、求める。

(孫 行徳) 24才
天慎 27才
幸運 9才

どんどん危険な状態へと変わっていく天慎の為、行徳は、幸運が天慎から教わっていた特別な薬草を深い山奥に求める為、不自由な身体で山中に入る。何度も危ない目に遭いながらも、ついに、薬草を見つけ出す行徳。
天慎を助けたいという強い想いは、生きる事の意味と自身をも救う力となってくる。

(孫 行徳) 24才
天慎 27才
幸運 9才

復讐を捨てる
(修行)

行徳の薬草がかろうじて間に合い、何とか命を取り留める天慎。二人は初めてお互いが本当に心が繋がったことを知り愛し合う。再び、生きる為の修行が始まった。

魏と趙は急速に国力を回復し、魏は兵力も優れた将軍が現れる事でみるみる強力になった。魏は趙と何度も戦闘に入り、齊は燕や呉、又魏とも戦闘になりあちこちで勢力争いが再び起き始める。

楚もその動きを活発化させ覇権を握る為に韓を脅かしていたが、韓の懸命な防衛の前に決定的な形を作れずにいた。

(西虎) 32才

秦には各国も手を出さずにいた。攻めるには強力な兵力を失っていない秦は手に余ったのだ。

西虎はこれを利用し、まさに自身の指揮で自在に兵を動かし、様々な戦いに応じられる陣形と戦術を編み出し実行できる状況へと訓練を続けた。

(孫 行徳) 27才
天慎 30才
幸運 12才

生きる目的の為に、片手でも自由に過ごす力を目指した二人だが、天慎の集中力がつぶてを利用する事で強力な攻撃力を持つ流星弾を編み出した。行徳は左手での剣技が自在となり、そのスピードを生かした真空波の攻撃、光破撃を編み出す。そしてついに、光破剣にたどり着く。幸運は天慎から弓を、行徳から小剣をそれぞれ学んでいた。

(西虎) 32才

試験をかねて僅かずつ進軍を始めた秦に、各国は一斉に反応した。趙は齊と結び呉とも繋がって秦に対抗した。魏は楚と韓と結び秦に対抗した。西虎は外交にて各国の連携を崩す事に集中した。これは見事に功を奏し、各国は互いに疑い、連携は崩れた。西虎の戦闘はあくまで陣形戦であり、常に敵の弱点を突く事がうまかった。この見事さに秦王は再び霸道へと目を向ける。

(西虎) 33才

陣形戦は時間がかかり、各国への進行は思うようには進まず、又、一国に戦力を集中させると隙を突いて他国が侵入してくる為に西虎は外交、戦闘を常に各国へ向けねばならず、苦戦していた。一戦闘で敵地深くへ進行する猛兄弟がいた頃の破竹の勢いにはほど遠かった。各国にも戦略家が台頭し、頭脳で世に出ようとする人々が次々に生まれてきた為であった。

(西虎) 34才

西虎の外交に思わぬチャンスが訪れたのは、楚王が亡くなった事

だった。楚を中心としていた連携がくずれ、仲の悪かった魏と韓がぶつかり合った。このチャンスに一気に魏に侵入し、有力な将軍を討ち、魏の領土深くに侵入した。

(西虎) 34才

魏は西虎の戦術の前に屈し、領土の半分を失い敗北する。西虎は魏王と結び楚をその盟約に取り込み、斉を中心とした連携を脅かせた。そしてこのタイミングで韓に兵を向ける。

(孫 行徳) 29才
天慎 32才
幸運 14才

国内の権力争いの危機の折、行徳を助けた友人は将軍にまでなっていたが、秦の進行で一気に危機に追い込まれる。友人の危機を知った行徳は直ちに駆けつけ、西虎の戦術の穴を見抜き光破剣で秦軍を破る。

活人剣の道
(企み)

(西虎) 34才
行徳 29才

西虎の戦術は、劣勢になった場合を想定していて、行徳から受ける被害を少なくさせる事に成功していた。負けたが傷は浅くてすんだのである。西虎と行徳の宿命の戦いが始まる。

(光 天慎) 32才
幸運 14才
(旅立ち)

各国のあまりに荒れた有様に、天慎はかねてからの念願であった傷ついた人を助けて回る旅を決意し、幸運と共に旅立つ。

(西虎) 34才
行徳 29才

数と力で劣る韓も、行徳を中心とする事で西虎の策を次々と破っていた。西虎の自在な戦術も、行徳の光破剣、光破撃には歯が立たず、徐々に国境へ押し戻されていくようになる。

(孫 行徳) 30才
西虎 35才

行徳は秦の劣勢にもかかわらず動いてこない他国が気になり始める。楚や魏が秦に協力してくると、行徳だけでは防ぎきれないからだ。西虎の狙いもそこにあるのを感じた行徳は、一気に西虎を倒す作戦に出る。

(西虎) 35才
行徳 30才

西虎は、外交だけでなく、行徳自身を疲弊させて倒す策を練っていた。両者の雌雄を決する戦いが始まった。行徳の無敵の剣は西虎のいる陣に肉薄していくが、この時、沈黙を守っていた趙が斉と共に秦に侵攻を開始した為、西虎は慌てた秦王に呼び戻されていた。

(孫 行徳) 30才
西虎 35才

西虎は討ち損じたが、この日の戦闘で秦は多くの犠牲者をだし、敗北し、国内へと戻っていった。行徳の韓はついに秦に勝利したのである。

(西虎) 36才

秦国内で、趙、斉の連合軍に懸命に対抗して、どうにか国境近くに

押し戻せそうになった時、西虎の元に驚くべき知らせが飛び込んできた。秦王が病に倒れあっさり亡くなってしまったのだ。次王がすぐに即位した。、次王は先王を嫌っていた為、その側近であった西虎も毛嫌いしていた。作戦中であったにもかかわらず西虎は更迭されてしまう。

軍師を失った軍がどうなるかは言うまでもない。秦は趙、齊の連合軍に、さらに魏、楚の連合軍に責め立てられ、函国関まで兵を下げ、引き籠もって守るのみの状況となる。西虎は秦に失望し、いずこかへと姿を消した。如何に無念だったのかは想像に難くない。

その後の主人公達

(孫行徳)

韓を守った行徳は、韓王には仕えず、桜旦の自由兵として以後も韓国にとどまり、土孝欣軍の援助を受け自由兵団を組織し、各国の進行を阻み続けた。韓は小さい領土に満足し、他国へ侵入する戦いは行わなかった。他国から恐れられた行徳は中華一の剣士と呼ばれるようになる。あくまでも護りたい人と国を護る事に徹した、行徳の活人術であった。

(光天慎)

天慎と幸運は各国の村々を回り、様々な知識と医術で傷ついた人々を助け、援助し、多くの人から感謝された。その行動は、広く国々に知られるようになり、どの国でも天慎は受け入れられ、医療活動を続けた。人々から「白き降天女」と呼ばれ、尊敬され愛された。天慎の在り方こそ、元仁が求めた真の活人術ではなかったか。天慎は父と同じ80才まで生き、多くの人々を助け続けた。その医術軍団は後の世に伝わり、赤十字の手本となったという。

(武幸運)

幸運は常に天慎を助け、何度も襲われたが全て退けた。その場その場にある物を利用して戦っていたので、幸運の技は多岐にわたり、体術、剣、槍、斧、棒に至るまで、様々な武器に精通していく。やがて天慎が亡くなると、一人で山に籠もり人々を助ける僧侶にその武術を教えた。幸運は後の世で武術の神様とまで云われあがめられる。幸運の活人術は、僧侶の世界に伝わり後世に残された、見事な活人術である